

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・眼科編⑩

目薬（点眼剤）にも副作用があるんでえ

岡山県医師会眼科部会 辻 俊彦



当然ながら、目薬も薬剤ですのでいろいろな副作用が起こることがあります。しかし、患者さんの中には、目薬だからと安易に考え、他人や家族に処方した点眼薬を使用したり、自分勝手な方法で使用している人が多くみられます。そこで、比較的良好である点眼剤の副作用についてまとめてみましたので、先生方の日々の診療の参考にされるとともに、患者さんへのご指導をお願いいたします。

1) 全身的副作用

当然、目薬でも抗生剤や抗菌剤の点眼剤によるアナフィラキシーショックが起こることがあります。数年前に使って大丈夫だった抗生剤を点眼した角膜異物の患者さんが、2時間後に血圧が下がり、救急受診したことがあります。

また、一部の緑内障点眼剤（ β -ブロッカー）により、喘息発作の誘発、徐脈、失神発作や稀に抑うつ状態が生じることがあります。

2) 眼局所的副作用

①感染

長期間の抗菌剤、抗生剤の使用により、全身的投与の場合と同様に菌交代現象やウイルス感染が生じることがあります。漫然と長期間抗菌剤が使われている結膜炎の患者さんで、結膜囊の細菌検査をすると多剤耐性菌などが同定され、感受性のある薬物が少なく治療が困難となる場合があります。

またステロイド点眼の長期使用で細菌性角膜潰瘍、真菌性角膜潰瘍、ヘルペス性角膜潰瘍などの重篤な疾患が発症することがあります。ステロイド点眼を長期間使用しているアレルギー性結膜炎の患者さんが、角膜ヘルペスを発症した経験が何度かあります。また、難治性結膜炎で長期間抗菌剤とステロイド（リンデロンA）が使われていた患者さんの往診をしたところ、既に両眼とも角膜潰瘍を発症し、角膜穿孔していたことがありました。

②角膜障害

多くの点眼剤に使われている防腐剤（塩化ベンザルコニウム等）により角膜の上皮障害が生じることがあります。また、 β ブロッカーやプロスタグランジン製剤などの緑内障治療剤やNSAIDs点眼剤によっても起こります。初期では微細な点状の多発性上皮欠損で、薬物の中止で治癒することが多いのですが、進行すると遷延性の上皮欠損となり

治療に抵抗することがあります。

③アレルギー反応

多くの種類の点眼剤でアレルギー性結膜炎や眼瞼炎を起こすことがあり、早期に薬剤を中止することが重要です。

④眼圧上昇、緑内障

ステロイド点眼剤は種類や濃度に関係なく、すべて眼圧を上昇させることがあります。緑内障の患者さんや年少者は特にそのリスクが強く、使用中は定期的な眼圧測定が必要です。

ステロイド軟膏、点眼で治療しているアトピー性皮膚炎の子供で、眼圧を測定すると結構高くなっていて、慌てることがあります。

最後に先生方の患者さんで、点眼剤を使用していて気になる症状が出現したり、眼圧の測定を希望される場合は、眼科医にお気軽にご相談下されれば幸いです。また、点眼は1、2滴で十分で、決められた点眼回数も守るように患者さんへのご指導をお願いいたします。



児島医師会：村山正則